

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

火打山－花と池塘と湿原と－



天狗の庭から仰ぐ火打山

火打山(2462m)は、妙高山、火打山、焼山、雨飾山と続く妙高連峰の最高峰である。7月中旬、その妙高山と火打山に登った。初日は火打山。

前夜、笹ヶ峰牧場駐車場に車を入れて仮眠。朝6時出発で火打山に向かう。最初はブナ、ナラの原生林の中、延々と続く木道を辿る。轟音を立てて流れる黒沢の仮橋を渡った後は、展望のない林の中のジグザグ登りになる。地図に「十二曲り」と記された急登である。十二曲りの後は、尾根道の直登になり8時40分、黒沢池分岐を通過すると、道は黒沢岳の山腹を絡む緩やかな散歩道となり、右手に眺望が開け、焼山、火打山の全容を仰ぎ見た。9時半、高谷池のほとりに建つ三角屋根の高谷池ヒュッテ



高谷池と高谷池ヒュッテ

に到着し、のんびり30分間の大休止をとった。この辺の冬季の積雪は4~5mにもなり、スキーヤーは三角屋根のてっぺんの天窓から出入りするとのこと。

10時出発で高谷池を回り込み、小さな台地を越えると「天狗の庭」。火打山を借景として湿原と池塘の点在する景観は、どこか外国の観光写真を切り抜きしたような趣きである。ワタスゲ、コウメバチソウ、コイワカガミ、イワイチョウなどの花々が、今が真っ盛りだった。

その後は、ネマガリダケに覆われた尾根をひたすら登り、火打山山頂到着11時40分。途中の登路、足元を彩るゴゼンタチバナ、ウサギギクなどが愛らしかった。

山頂からの眺望がこれまた絶佳。頸城の山々はもとより、後立山、八ヶ岳、上越の山々、微かに日本海に浮かぶ佐渡ヶ島も遠望できた。弁当を拵げ、ゆっくり展望を楽しんだ後、下山開始が12時半。もとの天狗の庭まで戻って、ここでもまた長逗留の大景観鑑賞。明日は妙高山行き、今夜は黒沢池ヒュッテ泊りということで、至極のんびりである。

高谷池のちょっと手前の分岐を左に入り、黒沢池に向かう。一登りして茶臼山を越えるとパッと周りが開けて、黒沢池を中心とする大湿原が目の下に広がって見えた。ユニークな宇宙船のような形の黒沢池ヒュッテが、ひときわ目を惹く。

15時半、黒沢池ヒュッテ到着。中央が吹き抜けになった八角形3階建ての小屋は、各階が回廊式の寝床になっており、なかなか快適である。3階に寝床を確保して、やおら下を見下ろすと1階のフロアで何やら宴会らしきものが始まっている。小生も早速、仲間に加わった。



火打山頂から眺める後立山連峰